



平成26年度 果樹情報 第5号

(平成26年5月16日)

福島県農林水産部農業振興課



1 気象概況 (5月前半：果樹研究所)

5月前半の平均気温は、1半旬が16.5℃で平年より1.5℃高く、2半旬が14.2℃で平年より1.5℃低く、3半旬が18.5℃で平年より3.1℃高く、この期間の降水量は8.5mmで平年の21%でした。

2 土壌の水分状況 (5月15日現在)

果樹研究所における土壌水分 (pF値：無かん水・草生栽培りんご園) は、深さ20cmが2.9、40cmが2.0、60cmが2.2で、深さ20cmは乾燥状態ですが、深さ40cmと60cmは適湿条件の範囲です。

3 発育状況

(1) もも

本年の「あかつき」の硬核期開始は、6月10日頃で平年より1日早いと予測されます。また、収穫開始は平年より1日遅いと予測されます。

表1 ももの発育予測 (5月15日現在)

品 種	硬核開始日			収穫開始日		
	本年予測	平年	平年差	本年予測	平年	平年差
あかつき	6/10	6/11	1日早い	8/3	8/2	1日遅い

注) 発育速度 (DVR) モデルによる発育予測。平年は1981年～2010年の平均。

(2) ぶどう

本年の「巨峰」の開花始め及び満開は、今後の気温が平年並に推移した場合、各々、6月6日、6月8日と予測されます。

表2 ぶどうの開花予測日 (5月14日現在)

品 種	開花始め		今後の気温経過と開花予測日		
	昨年	平年	平年並み	2℃高い	2℃低い
巨峰 (有核)	6月5日	6月6日	6月6日	6月3日	6月10日

注) 発育速度 (DVR) モデルによる発育予測。平年は1988～2010年の平均。

表3 ぶどうの満開予測日 (5月14日現在)

品 種	満 開		今後の気温経過と満開予測日		
	昨年	平年	平年並み	2℃高い	2℃低い
巨 峰	6月10日	6月10日	6月8日	6月5日	6月13日

注) 発育速度 (DVR) モデルによる発育予測。平年は1988～2010年の平均。

東北地方1か月予報(仙台区気象台 平成26年5月15日発表)

今後の気温の経過は、1週目(5月17日～5月23日)は平年並、低い確率が各々40%、2週目(5月24日～5月30日)は低い確率が60%、3～4週目(5月31日～6月13日)は平年並の確率が40%となっています。

※ なお、東北地方の太平洋側では、2週目の5月24日～30日の間、気温がかなり低くなる可能性があるとして「異常天候早期警戒情報」が発表されていますので、十分注意しましょう。

※ 気象庁では「天気予報」以外にも下記の情報も発表しておりますので、これらも参考にして管理作業や防霜対策を進めましょう。

○ 季節予報

1か月間や3か月間といった期間全体の大まかな天候を3つの階級で予報しています。

URL: <http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>

○ 最高・最低気温分布予想

一辺20kmの正方形のマス目において、そのマス目の中の代表的な気温などを予想しており、翌日朝の最低気温の予想などが表示されます。

URL: http://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/data/kouon/t_maxmin.html

4 栽培上の留意点

(1) 凍霜害対策

果樹類の多くは幼果期を迎えていますが、引き続き気象予報に注意し、降霜の恐れがある場合は防霜対策を実施しましょう。なお、ぶどうは展葉期に凍霜害を受けると、花器だけでなく新梢にも障害が発生する場合がありますため、十分注意しましょう。

(2) 乾燥対策

今後、降水量が少なく園内の土壌が乾燥するような場合は、以下の対策を講じましょう。

ア かん水

10a当たり25～30tを1回のかん水の目安とし、5～7日間隔で実施しましょう。なお、保水性が劣る砂質土壌等では、1回の量を少なくして、間隔を短くしましょう。

イ 草生管理

草生栽培の園では、樹と草との水分競合を防ぐため、草刈りを行いましょ。なお、地際部まで刈ると放射性物質をまき上げる可能性がありますので注意しましょう。

ウ マルチ

梅雨前の当面の間は、刈り草や稲わらのマルチにより、土壌水分の保持に努めましょう。

(3) も も

この時期は新梢や果実の生育が旺盛になることから、着果管理や土壌の水管理等を徹底し、初期生育を促進しましょう。

ア 予備摘果

摘らいや摘花を実施しなかった園やこれらの程度が弱かった園では、必ず予備摘果を実施しましょう。なお、結実状況にバラツキがある場合は、予備摘果は行わず仕上げ摘果から実施しましょう。

イ 仕上げ摘果

果実肥大に差がつく満開後40日頃から実施します。なお、本年は、6月10日頃から硬核期が始まると予想（果樹研究所）されますので、この頃を目安に仕上げ摘果を終了させましょう。

仕上げ摘果で残す果実の量は、最終的に着果させる量の1～2割増とし、樹勢や双胚果、核障害の発生状況等を見ながら加減しましょう。

ウ 新梢管理

5月下旬から6月中旬は新梢の生育が旺盛な時期で、樹勢の強い樹や若木等では樹冠が混みやすくなります。

樹冠内部や主枝、垂主枝の基部、側枝基部の徒長しやすい新梢等、今後、樹冠内を暗くするおそれのある新梢は、早めに摘心や夏季せん定を行いましょ。

なお、樹勢の弱い樹は、これらの管理を行わないか最小限とし、葉面積の確保により樹勢の回復を促しましょう。

(4) りんご

落花7～10日後でガク立ちが始まり、実止まりが確認できるようになります。実止まり確認後は速やかに予備摘果を開始し、満開後30日以内に終了するよう心掛けましょ。

成熟が遅れ、果実品質も劣る長果枝や貧弱な果そう等の果実は全て摘果し、着果負担の軽減を図りましょ。

また、えき芽果の着生が多い園では早めに摘果を行い、この部位からの枝の発出を促し翌年以降に備えましょ。

予備摘果と併せて、主枝や骨格枝の背面や枝の切り口等から発生している新梢は、手でかき取れるうちに芽かきを行いましょ。

(5) なし

満開後30日を目安に予備摘果を終了させましょ。

また、主枝や垂主枝の背面枝はかき取り、不定芽新梢が混み合っている部位はこれらの間引きし、2～3本に整理しましょ。予備枝新梢は、強風による折損の恐れがなくなっから先端の一本を残しましょ。

なお、新梢の伸長が悪く葉色が淡い場合は、早期摘果で着果負担を軽減するとともに、5月中を目安にチッ素成分を含む葉面散布用肥料の散布等で、樹勢の回復を図りましょ。

(6) ぶどう

混み合っている部位の新梢や強勢で花振るいの恐れのある新梢、花穂を持たない弱い新梢は芽かきし、新梢が30～40cm程に生育した頃から新梢の誘引を行いましょ。

ただし、この時期の「あづましずく」の新梢は、基部から折損しやすいので、無理に誘引せず時期を遅らせて実施しましょ。

なお、この時期から開花期頃にかけては、新梢誘引、摘穂、花穂整形、ジベレリン処理等と生育ステージに合わせた管理作業が続きますので、各々適期を逃さないよう計画的に実施しましょ。

(7) おうとう

樹勢が適正な樹においては、一つの花束状短果枝に3～4果程度の着果を目安に、早めに摘果を実施しましょ。

また、雨よけ資材による被覆や園内の草刈り、シルバーシートの敷設等の管理作業も計画的に実施しましょ。

5 病害虫防除上の留意点

(1) 病 害

ア りんごうどんこ病

乾燥条件が続くと発生が多くなるおそれがあります。り病部位をせん除し適切に処分するとともに、落花2週間後にうどんこ病防除剤を散布しましょう。

イ ももせん孔細菌病

福島及び伊達地域では、5月上旬の春型枝病斑の発生は場割合が平年より高い状況でした（病害虫防除所、平成26年5月9日付け病害虫発生予察情報注意報第1号）。

昨年の秋季において、両地域ともに新梢葉での発生が目立ったことから、越冬菌密度は高いと考えられ、今後の発生量はさらに増加すると予想されます。

春型枝病斑やこの周囲の発病部は今後の感染を助長しますので、見つけしだいせん除し適切に処分するとともに、5月中～下旬にせん孔細菌病防除剤を散布しましょう。

ウ もも灰星病

灰星病の感染による花腐れが原因の枯れ枝は、成熟期において果実への伝染源となるので、見つけしだいせん除し適切に処分しましょう。

エ なし黒星病

中通り北部、南部及び浜通り南部では、5月上旬の果そう基部における発生程度が平年より高いほ場がみられました（病害虫防除所、平成26年5月8日付け病害虫防除情報）。

果そう基部病斑は見つけしだい除去し、適切に処分するとともに、薬剤防除を徹底しましょう。なお、防除に当たっては、5月中は7日間隔での散布を心掛け、散布量は10 a 当たり250リットル（スピードスプレーヤの場合）の規定量を遵守しましょう。

(2) 虫 害

ア 主要鱗翅目害虫

主要な鱗翅目害虫の発生時期は平年よりやや早く推移していると推測されます。

各害虫の越冬世代成虫の発生ピークは、モモハモグリガが4月25日、ナシヒメシンクイが4月28日でした。

イ モモハモグリガ

現在、越冬世代成虫の発生は終息したとみられます。今後の気温が平年並みに推移した場合、第2世代幼虫の防除適期は6月2半旬頃になると推定されます。今後の気温の推移に留意して防除を行いましょ。

ウ ハマキムシ類

リンゴモンハマキ及びリンゴコカクモンハマキの越冬世代成虫の発生盛期は5月4半旬頃と推定されます。

今後の気温が平年並みに推移した場合、これらの第1世代幼虫の防除適期は6月1半旬頃になると推定されます。今後の気温の推移に留意して防除を行いましょ。

なお、複合交信攪乱剤の設置が遅れているほ場では早急に設置しましょ。

エ カイガラムシ類

ウメシロカイガラムシ越冬雌成虫の防除適期は5月5～6半旬頃になると見込まれますので、ふ化幼虫の分散に合わせて防除を行いましょ。

なお、クワシロカイガラムシの防除適期は、これより7～10日程度遅くなりますので、時期を間違わないよう注意しましょ。

オ カメムシ類

越冬世代の成虫による被害は幼果期から見られることがあります。特に山間部や山沿いの園では、飛来状況をよく観察し、多数の飛来が見られた場合は速やかに防除を行いましょ。

表4 果樹研究所における主要害虫の防除時期の推定（平成26年5月15日現在）

今後の 気温予測	リンゴモンハマキ		モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	越冬世代 発生盛期	第1世代 防除適期	第1世代 成虫盛期	第2世代 防除適期	第1世代 成虫盛期	第2世代 防除適期
2℃高い	5月18日	5月30日	5月30日	6月4日	6月14日	6月23日
平年並み	5月18日	6月2日	6月2日	6月8日	6月20日	6月30日
2℃低い	5月19日	6月6日	6月6日	6月12日	6月29日	7月11日

注) 演算方法は、三角法による。

起算日 リンゴモンハマキ：3月1日、モモハモグリガ：4月25日

ナシヒメシンクイ：4月28日

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7339
 (以下のURLより他の農業技術情報等をご覧いただけます。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

農業総合センター（本部、果樹研究所、会津地域研究所、農業短期大学校）の生育状況を掲載していますので、参考にしてください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/nogyo-nousin-gi-jyutu03.html#tokubetsujyohou>

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧いただけます。

URL: <http://www.new-fukushima.jp/>